



# 親は子どもが会う 最初の先生



中級から本格的に泳法技術を修得するクラスになりました。人には、必ず得意・不得意があります。たとえ、得意なところで足踏みをして、決して悪いことではありません。足踏みも前進の為の大切な1つの経験段階として、諦めず努力をし、乗り越えられるように親が励ましてあげることが大切です。私たちコーチも小さな変化に気付き、褒める事でお子様の可能性を引き出しながら指導を行っています。保護者の方にも褒める事や、相談に乗ることによりお子様の不安や悩みの解消に繋がると思います。学校での出来事や友達と遊んだことに加えて水泳での出来事をご家庭で聞いてあげてください。



進級が遅くても、叱らずに前向きにアドバイスしましょう！！

進歩する速さが子どもによって違うのは当然のことです。  
「〇〇ちゃんはちゃんとできているのに△△は・・・」と、周りと比べてしまうと落ち込み、やる気を失うことに繋がります。  
叱らず、努力することの大切さを教えたり、課題を乗り越えるためのヒントを与えるようにしましょう！！



「どうして勉強するの？」  
子どもの疑問に、どう答えますか？

嫌いな教科を「勉強しなさい！」と言われて子どもが反発するのは当たり前。なんでやるのか分からないままに「やれ」と言うだけでは子どもの心には全く響きません。子どもの『どうして勉強するの?』という疑問にきちんと答えてあげることが大切です。1年生～3年生で「どうして勉強するの?」と考える子は少ないです。それはまだ学力差も小さく、みんながやったらやっただけできるようになるから。それが3年生～4年生になると他人と差がつく苦手教科というのができてきます。実は『どうして?』と考えるのは、ちょっとつまづいてしまっている子どものサインでもあります。『どうして勉強するの?』と聞かれたとき、多くのお父さん、お母さんが子どもだからと噛み砕いて真面目に話そうとするために上手く答えられなくなります。そんなときはきちんと現実を教えてあげましょう。

★こんな話も話題になりました。

ある子どもが『なぜ勉強をするの?』と母親に聞いたときのこと。  
そのお母さんはコップを指して「国語なら、透明なコップに入った濁ったお茶。  
算数なら、200mlのコップに半分以下残っているお茶。  
社会なら、中国産のコップに入った静岡のお茶。と色々な観点が持てる。  
多様な視点や価値観は心を自由にする」と答えたそう。

「お母さんはね・・・」と答えてくれることが子どもは一番嬉しい  
自分が「勉強してよかった」と思った瞬間、「勉強しておけばよかった」と思った瞬間などを教えるのも良いですね。たとえその全てに納得できなくても、「お母さんは、こう思っている」とじっくり考えて、丁寧に伝えると子どもは嬉しくなるでしょう。どんな素晴らしい回答を返すかよりも、信頼している人が「私の場合はね・・・」と自分の経験をもとにしっかりと答えてくれることが何よりも意味があるのです。

中級クラスは水泳技術や泳力（泳ぐ為の体力）がポイントになってきます。欠席が多く、練習回数が少ないと進級するまでに時間がかかり、泳力もなかなかつきません。欠席せず、週に1回（又は2回）必ず練習に来ることで上達します。風邪をひいてしまったり、学校や家の用事で欠席してしまう時もあり、お子様が継続して練習を行い“上達する喜び”や“水泳の楽しさ”を知ることが出来るのは保護者の方のサポートなしでは経験出来ないことだと思います。お子様にとって大事なことをお子様とのコミュニケーションをとる中で見つけてあげてください。